

みを調査するのです。然し官立の學校、試験場、講習所等に於て栽培せられましたものは調査を要しません

二、永年性牧草とはチモニー、オーチヤードグラス、レッドトップ、スエスキト、ケンタッキープリニューグラス、トールオートグラス、レッドクローバー等莖葉を飼料に供する永年性草本作物を謂ひます。

三、收穫面積には其の年實際收穫した地の面積を計上するのです。

四、混作又は間作は相互に影響を受けた限度に於て各其の面積を見積るのです。

五、收穫高には秋時たると春時たるとを問はず凡て其の年收穫した生草の數量を計上します。但し刈取らないで其の儘飼料とした場合には其の收穫高は收穫したものに準じ之を見積り計上致します。

六、價額は生産者の賣渡價格を基準とし若し當該市町村内に賣買の事實が

なく賣渡價格のないときは市町村に於ては備考欄に其の旨を記載し價額及單價の記載を要します。

七、備考欄には増減著しき場合に其の理由及記入事項中説明を要する事項等を御記載願ひます。

八、本表に計上する作物は農林省統計様式第七麥、第八食用農産物、第九園藝農産物、又は第一緑肥用作物の

何れの表にも之を計上しない様御注意を願ひます。

九、前項調査の重復を防ぐ爲大正十四年十一月本縣々令第三十八號農林商工統計報告規則取扱細則に依る田畑の小票記入に際しては適當な時期に於て實地調査の上小票備考欄に飼料作物と記入を願ひます。

### 統計主任者異動

(上は新任括弧内は舊)

昭和十四年四月十一日	磯崎 健造 (岡部 勝一)	同 年二月十日	和田 吉五郎 (小松村 達士)
同 年二月十五日	小川 得雄 (川上 増次)	同 年三月二十八日	井上 廣之介 (大内 熊吉)
同 年二月二十八日	貝塚 喜一 (羽生 宗雄)	同 年二月二十一日	木下 清喜 (會澤 政志)
同 年二月二十四日	飯塚 丑松 (下村 光三郎)	同 年三月五日	橋本 誠之助 (田口 正作)
		同 年六月二十六日	皆川 壽雄 (大友 永之介)
		同 年六月十三日	坂場 鐵雄 (藤地 伴介)

## 最近の統計

# 麥作は二割五分余の 增收を豫想さる

縣の増産獎勵と天候に恵まれ

農家の努力も報いられやう

全國第一位を誇る本縣の麥作状況に基き縣統計課が去る五月二十日現在により調査したところによると、先づ麥作付反別及び其の前年との比較は

種別	本年度作付反別	前年作付反別との對比
大麥	三、二〇・二反歩	減 二四・八反(零分七厘)
裸麥	二、四九・七	減 一八・七 (六分九厘)
小麥	五、三六・三	増 一、三九〇 (二分九厘)
計	九、〇五・〇	増 一、二〇五 (一分二厘)

で、大麥、裸麥の作付反別は何れも減少したが縣の増産獎勵によつて小麥の作付反別増加によつて總作付反別も亦一分二厘の増加を見た。而して麥豫想收穫高及び前年實收高との比較は

種別	本年豫想收穫高	前年收穫高對比増
大麥	六六、三〇石	一五、六三石(二割零分九厘)
裸麥	四〇、七〇	六、五九 (一割八分六厘)
小麥	六五、〇〇	一六、九八 (三割零分五厘)
計	一七二、〇〇	三三、九八 (二割五分三厘)

之は本年の麥作景況は、播種以來天候が適順で初期の生育は頗る良好だったが、冬季には降雨が少く、早天が持續したの、殊に大麥は生育を阻害された。併し其の後は適當に降雨があり、天候が順調に復したのと、肥培管理に周到を期したのによつて相當恢復した爲前年收穫高に比し三十五萬六千九百十八石即ち二割五分三厘の增收を豫想されるに至つたのである。郡市別に示せば左の通りである。(△印は減)

町反別	大 麥		稗 麥		小 麥	
	作付反別	豫想 收穫高	前年 收穫高	前年ニ比 シ増減	作付反別	豫想 收穫高
水戸	町反	二、八〇〇	二、三三三	石	町反	九、〇〇〇
東茨城	町反	三、〇〇〇	二、七三三	石	町反	六、八〇〇
西茨城	町反	一、三三三	一、〇〇〇	石	町反	三、五〇〇
那珂	町反	三、〇〇〇	二、七三三	石	町反	三、三〇〇
久慈	町反	二、八五〇	二、五八三	石	町反	三、三〇〇
多賀	町反	七、五〇〇	七、二三三	石	町反	三、三〇〇
鹿島	町反	二、三三三	二、〇六六	石	町反	三、三〇〇
行方	町反	九、〇〇〇	八、七三三	石	町反	三、三〇〇
稲敷	町反	一、八七五	一、六〇八	石	町反	三、三〇〇
新治	町反	二、〇〇〇	一、七三三	石	町反	三、三〇〇
筑波	町反	二、〇〇〇	一、七三三	石	町反	三、三〇〇
眞壁	町反	三、九〇〇	三、六三三	石	町反	三、三〇〇
結城	町反	三、九〇〇	三、六三三	石	町反	三、三〇〇
猿島	町反	五、〇〇〇	四、七三三	石	町反	三、三〇〇
北相馬	町反	一、〇〇〇	九、七三三	石	町反	三、三〇〇
合計	町反	三、二〇〇	二、九三三	石	町反	三、三〇〇

### 去年の水害が祟つて

## 春繭は減収を豫想さる

### 六月中旬の見込で一割九厘

縣統計課が本年六月十五日現在で調査集計した春蠶豫想收穫高は百六十七萬二千八百六十貫(白繭種六十萬六千七百貫、黃繭種百六萬六千六百六十貫)となり、前年收穫高百八十七萬八千五百四十七貫に比し二十萬五千六百八十七貫(一割〇分九厘)の減を示した。

此の減收豫想を見たのは昨年風水害に依る桑園の整理改植に因る桑葉量の減少を見越したのと、今次事變に伴ふ努力の不足とに依り掃立を手控へなければならなくなつたのによるものである。郡市別と前年對比は左の通りである。△印は減

町反別	豫想 收穫高		前年 收穫高		前年ニ比シ増減	
	白 繭	黄 繭	白 繭	黄 繭	貫	貫
水戸	一、二〇〇	一、一〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	△	一、一〇〇
東茨城	三、〇七五	二、七三三	三、〇七五	二、七三三	△	三、〇七五
西茨城	三、七三三	三、三〇〇	三、七三三	三、三〇〇	△	三、七三三
那珂	一、八四三	一、六〇〇	一、八四三	一、六〇〇	△	一、八四三
久慈	一、〇〇〇	九〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	△	一、〇〇〇
多賀	一、〇〇〇	九〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	△	一、〇〇〇
鹿島	二、九〇〇	二、六三三	二、九〇〇	二、六三三	△	二、九〇〇
行方	三、三三三	三、〇六六	三、三三三	三、〇六六	△	三、三三三